



30th Anniversary

30th

ひとが咲くまち。
ひたちなか



ひたちなか市

ひたちなか市 誕生30周年記念誌



30th Anniversary
30周年のロゴマークには、ひたちなか市が心地よいまちになるために自然とひとが寄り添い、成長していくという想いが込められています。市の頭文字である「h」で表現し、この先の大きな成長を意図した表現になっています。

ひとが咲くまち。
ひたちなか

ひたちなか市 誕生30周年記念誌

【発行】ひたちなか市
〒312-8501
茨城県ひたちなか市東石川2丁目10番1号
TEL.029-273-0111(代表)
<https://www.city.hitachinaka.lg.jp>
令和6年(2024年)11月発行

【制作】茨城新聞社

市長、議長の思うひたちなか市の魅力を教えてください。

市長
魅力は本当にたくさんあります。人の良さや温かさ、自分の住むまちを良くしようと動く活発な人が多いことがまず挙げられます。

市長
市長としてたくさんの方と関わってきましたが、どの方もより良いまちにしていこうという熱量が高いと感じますし、地元への愛着や誇りであるシビックプライドを持ってくれていると思います。そのような方たちと一緒にまちづくりをしていけると思うと、すごくワクワクします。

議長
人の良さは、大きな魅力の一つだと思います。若い頃、いわゆる大都市で生活した時期もありましたが、地元と比べると人間関係が希薄で、寂しさを感じることもありましたが、

市長
そんな時、地元に戻ってきて家族や友人らと触れ合ったり、大きく広がる海を見たりすることで「ああ、やっぱり地元はいいな」と思ったことを今でも思い出します。

市長
これは、ひたちなか市が大好きだからその感覚であり、心のどこかでシビックプライドを持っていたからこそ思ったのかもしれない。

市長×議長対談 「ひたちなか市」誕生時、20代前半だった市長と議長。市制30年を迎えたまちの魅力や変化、未来について語りました。

物、最近注目度の高まっている常陸乃国いせ海老といった海産物など、食の魅力にあふれているところも素晴らしいと思います。

議長
ほししいもといえ、昔は非常食というイメージがありましたよ。冬はストーブで炙り、柔らかくして食べていましたからね。今では紅はるかやシルクスweetなど多くの品種が登場し、スイーツや嗜好品という位置付けで全国的に人気が高くなっています。

市長
ほししいもは、ふるさと納税の返礼品でも非常に人気が高くなっています。全国の方からたくさんの方の支援を頂き、本当にありがたい限りです。

議長
変わったことといえば、新光町周

市長
常陸那珂港ができたことも大きな変化ですね。物流の拠点として発展し、今では大型クルーズ船などの大型船も発着する、茨城県を代表する港湾です。若い頃にひたちなか市を出た旧友に話すと、そんなすごい港ができたのかと驚かれることもあります。また、江戸時代までさかのぼると、この地域は国内物流の重要拠点でしたが、現在は国際物流の重要拠点となっています。市のさらなる発展の可能性を感じさせ、市の魅力の一つだと思います。

市長
き、自分の思いも込めて次の走者へと託します。これは市政にも通じる場所があり、受け継いだたすきをしっかりとした形で、次を走る人たちに伝えていきたい。次を走る人たちに、ひたちなか市っていいところだな、とシビックプライドを感じてもらえるまちにしていきたいですね。

10年、20年先の未来へメッセージをお願いします。

市長
ひたちなか市には、国際物流の拠点である常陸那珂港や快適な住環境を支える都市基盤、勝田マラソンのような全国的なイベントなど、先人たちが現在まで残してくれた多くの魅力があります。

議長
おっしゃる通り、ひたちなか市はたくさんの方の魅力にあふれ、たくさんのチャンスを持ったまちだと思います。市長の話にもありましたが、この魅力やチャンスは、今生まれたものだけではなく、先人たちがしっかりとつとめたビジョンを持つことで残ってきたものもあります。

議長
私は学生時代、駅伝の選手でした。駅伝は前を走ってきた走者たちの思いが詰まったたすきを受け取り、自分の区間をしっかりと走り抜

自分らしい花 咲かせるまちに

迎も大きく変わりましたね。ひと昔前の新光町周辺は、射爆場の近くということもあり、何もなかった印象があります。今では、多くの商業施設などが立地し、市内外から多くの方が訪れてたくさんの方の賑わいが生まれ、非常にうれしく思います。

市長
そうですね。そんなまちをつくるのが、市政運営を担う私たちの責務だと思います。より多くの人が、ひたちなか市の魅力や誇り、愛着を感じ、まちに対する「シビックプライド」を持ってもらいたいですし、「ひとが咲くまち。ひたちなか」のキャッチコピーにあるように、ひたちなか市に関わる全ての方が自分らしい花を咲かせることができる素敵なまちにしていきたいと思っています。



次世代へ たすきつなぐ

議長 薄井 宏安
1971年生まれ。2007年、市議選で初当選。現在5期目、23年11月から現職。



市長 大谷 明
1973年生まれ。県議を経て、2018年市長選で初当選。現在2期目。

Hitachinaka History 1994-1997

1994

11月1日

新市「ひたちなか市」誕生

11月27日

初代市長に清水昇氏就任

1995

11月1日

那珂湊総合福祉センター
(しあわせプラザ)開設

11月1日

新市章、市民憲章、
市の花木鳥制定

11月24日

黒磯市(現 那須塩原市)との
姉妹都市盟約調印式

12月3日

第50回三浜駅伝競走大会開催

1996

1月25日

石巻市との姉妹都市盟約調印式

1997

4月

ひたちなかソング
「素敵な明日のために」完成

7月22日

テクノセンタービル完成

10月7日

陸上競技場、総合体育館竣工

11月10日

人口15万人突破

ひたちなか市誕生

1994年

1994年11月1日、勝田と那珂湊両市が合併し「ひたちなか市」が誕生しました。ひたちなか市役所と那珂湊総合支所でそれぞれ開所式が開かれ、新市のスタートを祝いました。市の名称は、常陸国那珂郡という由緒ある歴史を共有している、国際港湾の常陸那珂港を有する常陸那珂地区を中心に未来へ発展する期待がこめられている、平仮名で親しみやすいことなどを理由に決定しました。

Hitachinaka History

ひたちなか市役所の開所式



栃木県黒磯市 (現 那須塩原市) 宮城県石巻市 姉妹都市 協定を締結

1996年、石巻、那珂湊両市が江戸時代に海運の要衝だったという縁で姉妹都市協定を締結しました。また、1990年、黒磯、那珂湊両市が同じ那珂川流域の都市という縁で姉妹都市協定を締結しました。ひたちなか市の誕生により、姉妹都市の連携を継続するために改めて協定を結びました。子どもたちのスポーツ交流やイベントへの相互参加など今も交流が続いています。



寺崎はねこ踊り保存会によるはねこ踊り(石巻市)



那須野ヶ原疏水太鼓保存会の演奏(那須塩原市)



第3回ひたちなか祭り

ひたちなかソング 「素敵な明日のために」完成

1997年

1997年、新市を盛り上げるため、ひたちなかソング「素敵な明日のために」の歌と踊りが制作されました。秋元康さん作詞、後藤次利さん作曲、本田美奈子さんが歌と豪華なメンバーが手掛け、広く市民に親しまれています。同年の第3回ひたちなか祭りでも本田美奈子さんが歌を披露しました。

ひたちなか市 30年のあゆみ

Hitachinaka City 30th Anniversary

市章、市民憲章、 花木鳥制定

市章は、2つの波が交流する所にH(ひたちなか市の頭文字)の文字が浮かび上がるデザインです。Hの文字は埠頭をイメージしており、基盤のしっかりとした産業の象徴です。渦巻く二つの形は波や風といった豊かな自然を表しており、右上へと伸びる勢いある形は「ひたちなか市」の発展、上昇を象徴するものです。しなやかな形とハードな形が一体となったこの形は、人と自然と産業といったハードとソフト、動きと静寂とが一つの調和のなかにある状態を表す姿でもあります。



市章、市民憲章、花木鳥制定記念大会



市の花
「はまぎく」



市の木
「いちよう」



市の鳥
「うぐいす」



市章

Hitachinaka History 1998-2002

1998

8月27日

那珂川の氾濫、寿橋が流出

12月21日

常陸那珂港第1船入港

1999

7月22日

東水戸道路・常陸那珂有料道路開通

9月30日

JCO 臨界事故発生

10月4日

佐野図書館開設

2000

8月12・13日

ROCK IN JAPAN FESTIVAL 初開催

2001

12月1日

ホテルニュー白亜紀温泉施設オープン

2002

2月11日

第50回勝田全国マラソン開催

4月

国営ひたち海浜公園「みはらしの丘」のネモフィラ公開

5月13日

笠松運動公園屋内水泳プール兼アイススケート場開設

7月21日

新勝田駅舎供用開始

8月1日

茨城インターハイ開催、皇太子殿下お成り

11月27日

第2代市長に本間源基氏就任



「みはらしの丘」のネモフィラ

国営ひたち海浜公園で初めてネモフィラの植栽が行われました。2002年当初、200万本だったネモフィラは現在、太平洋を望む「みはらしの丘」の一面に約530万本が植えられ、4月中旬〜5月上旬に見頃を迎えます。ネモフィラ、空、海の青が溶け合う「青の絶景」は、日本を代表する花の名所として知られ、国内外から多くの観光客が訪れています。

国営ひたち海浜公園 「みはらしの丘」の ネモフィラ公開



ひたちなかICで行われた開通式

1999年
東水戸道路・常陸那珂有料道路開通
1999年7月22日、未開通区間だった水戸大洗IC（ひたちなかIC）間と常陸那珂有料道路がつながり、東水戸道路が全線開通しました。首都圏や周辺都市への移動がしやすくなり、生活行動圏が拡大しました。ひたちなか地区を起点とする高速道路網整備の第一歩を祝い、当日はひたちなかICで開通式が盛大に行われました。



新那珂川大橋



勝田駅

2002年7月21日、市の玄関口である勝田駅の新駅舎の供用が始まりました。駅舎は風をコンセントにしたデザインで、橋上駅となり駅の東西を結ぶ自由通路が設けられ、利便性と快適性が大幅に向上しました。駅利用者以外の人々も東西間の行き来がしやすくなり、駅周辺の活性化につながっています。

新勝田駅舎 供用開始

2002年

ロック・イン・ジャパン・フェスティバル 初開催

2000年

2000年8月、真夏の音楽の祭典「ロック・イン・ジャパン・フェスティバル」がスタートしました。2日間でスピッツや奥田民生などアーティスト16組が出演しました。コロナ禍前の19年には250組が出演し、来場者延べ約33万7千人が国内最大規模の野外音楽ライブを楽しみました。24年には、25周年を記念してひたちなか市で5年ぶりに開催されました。



2000年に初開催



ROCK IN JAPAN FESTIVAL 2024 IN HITACHINAKA

2024年、25周年を記念し開催

Hitachinaka History 2004-2009

2004

5月9日
TEENS ROCK IN HITACHINAKA
初開催

7月10日

市制10周年記念事業
巨大壁画完成

2006

10月22日
スマイルあおぞらバス運行開始

2007

11月10日
ねんりんピック茨城2007開催

2008

4月1日
ひたちなか海浜鉄道誕生

11月1日

第23回国民文化祭・
いばらき2008開催

2009

3月27日
新寿橋開通

10月23日
技能五輪・
アビリンピックいばらき2009開催



スマイルあおぞらバス

スマイル あおぞらバス 運行開始

2006年

2006年10月22日、地域住民の交通手段確保のため、1回100円で乗車できるコミュニティバス「スマイルあおぞらバス」の運行を開始しました。当初は勝田西、那珂湊の2コースでしたが、地域の利用者からの要望などを踏まえ、現在は8コースで運行しています。23年度の利用者は約18万7千人に上り、市民の足として広く浸透しています。



ひたちなか海浜鉄道の開業式典

ひたちなか 海浜鉄道誕生

2008年

2008年4月1日、市が出資する第三セクターの「ひたちなか海浜鉄道」が開業しました。鉄道会社と地域、行政が三位一体となって廃線の危機を乗り越えた海浜鉄道は、地方鉄道再生のモデルケースとして注目を集めています。地域住民をはじめ、全国の多くの鉄道ファンからも親しまれています。



ティーンズロックinひたちなか

ティーンズロック初開催

2004年

2004年5月9日、全国高校生アマチュアバンド選手権「ティーンズロックinひたちなか」が初めて開催され、参加者はオリジナル曲を中心に熱い演奏を披露しました。現在は地区大会が行われ、優勝チームにロック・イン・ジャパン・フェスティバルへの出場権が与えられるとあって、毎年大きな盛り上がりを見せています。

市制10周年 記念事業 巨大壁画完成

2004年7月10日、市の誕生から10周年を迎えることを記念した巨大壁画が海岸道路に完成しました。「未来の国際港湾公園都市」をテーマとした高さ約1.5mの絵が、約200mにわたって続いています。市内の全小中学校29校が参加し、子どもたちは海や自然、未来都市、海底都市などを自由に描きました。

巨大壁画に絵を描く子どもたち



Hitachinaka History 2010-2013

2010

4月1日
ひたちなか市自立と協働のまちづくり基本条例施行

6月29日

日立製作所ひたちなか総合病院新設

2011

3月11日
東日本大震災発生

3月19日
北関東自動車道全線開通

7月30日

ひたちなか海浜鉄道全線復旧

2012

4月1日
ひたちなか市市民交流センター
ひたちなか・ま開設

5月1日
ひたちなか・東海グリーンセンター開所

5月24日
新湊大橋開通

6月3日
勝田駅東口再開発事業完了

2013

12月25日
湊線開業100周年



ひたちなか・東海グリーンセンター



新湊大橋の渡り初め

ひたちなか・東海グリーンセンター開所 新湊大橋開通

2012年

2012年5月1日、新しいごみ焼却施設のひたちなか・東海グリーンセンターが本格稼働しました。余熱を利用して発電を行うほか、焼却灰を溶融して埋め立て量を大幅に削減するなど、環境と経済性に配慮した施設です。

24日には、水戸市とひたちなか市を結び、那珂川にまたがる新しい湊大橋が開通しました。車道拡幅や歩道設置など利便性と安全性を確保し、22年には4車線化しています。



勝田駅東口

勝田駅東口の再開発事業完了

2012年6月3日、勝田駅東口周辺地区の再開発事業が完了しました。駅前広場を4倍に拡張し、安全性が向上するとともに交通渋滞が大幅に軽減されました。新たに整備した再開発ビルには住宅、店舗、ホテルや市民の交流活動の拠点施設である「市民交流センター」ひたちなか・まなどを配置し、定住人口や交流人口の増加に一定の効果があります。



津波で大きな被害を受け本格的な復旧作業が始まった那珂湊おさかな市場
4月28日に全店が再開した

東日本大震災発生

2011年

2011年3月11日、午後2時46分に東日本大震災が発生。ひたちなか市では震度6弱を観測。最大波4mの津波が来襲し、住宅や店舗、道路や上下水道、交通機関などに甚大な被害が出ました。市は地震発生直後、直ちに災害対策本部を設置し、沿岸部に避難指示を発令。同時に市内全ての指定避難所の開設を決め、避難者の受け入れや資機材配備などの対応に当たりました。また、市内全域で断水し、全域通水までに約2週間を要しました。



津波が来襲した那珂湊おさかな市場付近



ため池が決壊し、宙づりになったひたちなか海浜鉄道湊線の線路



観客席2階天井が落下した市民球場



断裂・沈下した道路

Hitachinaka History 2014-2020

2014

4月1日
全公民館が地域移管

10月1日

ひたちなか海浜鉄道新駅
「高田の鉄橋駅」開業

11月1日

ひたちなか市誕生
20周年記念式典挙行

2016

2月27日
外野跨線橋開通

4月

茨城港常陸那珂港区中央ふ頭地区
水深12m耐震強化岸壁完成、
供用開始

2017

10月1日
子育て支援・多世代交流施設
「ふあみりこらば」開所

2018

4月21日
六ツ野スポーツの杜公園オープン

4月23日

那珂湊支所新庁舎オープン

11月27日

第3代市長に大谷明氏就任

2019

9月28日~10月8日
第74回国民体育大会
「いきいき茨城ゆめ国体」開催

10月12日

台風19号(東日本台風)上陸



笠松運動公園で開かれた「いきいき茨城ゆめ国体」開会式



天皇、皇后両陛下を勝田駅でお出迎え



「いきいき茨城ゆめ国体」
マスコットキャラクター
「いばラッキー」



新型コロナウイルス対策を踏まえた避難訓練

学校の新しい生活様式を意識するよう呼びかけた生徒たち

新型コロナウイルス流行

2020年、新型コロナウイルスが世界的に大流行し、コロナ禍に突入しました。密閉、密集、密接の「3密」を避けるため、イベントは中止や規模縮小を余儀なくされ、学校は臨時休校、その後分散登校が続きました。また、自宅など職場外で働くテレワークが普及し、新しい生活様式が形成されました。市はワクチンの集団接種を複数回にわたって行い、飲食店や宿の支援として、プレミアム付き商品券の発行や割引の補助するなどの対策を実施しました。



手作りの仕切りで感染予防をしながら行った授業

**第74回国民体育大会
「いきいき茨城ゆめ国体」**

2019年

2019年、第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」が開催されました。茨城県開催は45年ぶり。笠松運動公園で天皇・皇后両陛下をお迎えして開会式が行われました。市内では、陸上、水泳、サッカー、バレーボールの計4競技が実施され、茨城県選手団が45年ぶり2度目となる天皇杯、皇后杯を獲得しました。



飛鳥IIの寄港を記念して開かれた歓迎セレモニー

2016年

2016年4月、茨城港常陸那珂港区中央ふ頭地区において、水深12m耐震強化岸壁が完成し、供用が開始されました。これにより完成自動車などを世界各地に運搬する大型の貨物船が接岸できるようになったことに加え、大型のクルーズ船の寄港も実現しました。また、災害時における緊急物資の輸送拠点としての機能も高まりました。これを機に、現在では取扱貨物量が順調に伸びているとともにクルーズ船の寄港も増加しており、今後さらなる港湾の建設が予定されています。

茨城港常陸那珂港区中央ふ頭地区 水深12m耐震強化岸壁完成

2016年

ふあみりこらば開所

2017年



ふあみりこらば開所

2017年10月1日、子育て支援・多世代交流施設「ふあみりこらば」が開所しました。子育て支援センター、生涯学習センター、青少年センターを集約した施設で、勝田駅近くの中心市街地にあります。無料で使える談話室やリースペース、音楽スタジオなどを備えており、未就学児の一時預かりや子育て相談にも応じています。

Hitachinaka History 2021-2024

2021

3月13日

ひたちなか海浜鉄道新駅
「美乃浜学園駅」開業

4月1日

美乃浜学園開校

2022

2月14日

防災拠点倉庫竣工

2月17日

上坪浄水場竣工

7月23日~24日

LuckyFes 初開催

2023

9月2日

新佐和駅舎・
東西自由通路供用開始

11月9日

石垣市との
友好市民交流覚書を締結

2024

2月21日

「十五郎穴横穴群」
国指定史跡に指定

8月17日・18日

第30回ひたちなか祭り開催

11月1日

ひたちなか市誕生
30周年記念式典挙行

11月12日

消防本部・
笹野消防署庁舎竣工(予定)

ひたちなかの花火大会

ひたちなか市では夏から秋にかけて、さまざまな花火が楽しめます。8月のひたちなか祭りでは、音楽とともに雄大な花火が夏の空を彩ります。2024年は祭りの30周年を記念し、ドローン550機を使ったドローンショーも行われました。毎年9月には、那珂湊海上花火大会が開催され、海面から光の花が咲くように広がる水中スターマインなどの光の競演が楽しめます。10月の阿字ヶ浦海岸花火大会では、秋の夜空に美しい花火が打ち上げられます。



ひたちなか祭りのドローンショー



ひたちなか祭りの花火



那珂湊海上花火大会の水中スターマイン

消防本部・笹野消防署 庁舎建て替え

2024年11月、新しい消防本部・笹野消防署庁舎が竣工します。庁舎は全館免震構造を採用し、耐震性能を確保しているほか、停電時にも使用可能な非常用発電機や、下水道が寸断された際に活用する緊急時汚水貯留槽を備えています。これにより、大規模災害時にも消防活動拠点としての機能を維持し、住民の安全安心を守ります。



建設中の消防本部・笹野消防署庁舎

ひたちなか市 誕生30周年 記念事業

2024年

30周年を記念し、1年を通して数多くの取り組みを実施しています。



夏季巡回ラジオ体操・みんなの体操会



熱気球フライト in 親水性中央公園



さかなクンのお魚教室(魚食普及講演会)



ロック・イン・ジャパン・フェスティバルのラッピングバス

市立美乃浜学園開校 美乃浜学園駅開業

2021年

2021年4月1日、阿字ヶ浦小、磯崎小、平磯小、阿字ヶ浦中、平磯中の統合し、義務教育学校の市立美乃浜学園が開校しました。地域住民、保護者、行政が協力して開校したこの学校は、豊かな自然環境に恵まれ、魅力的な学校づくりを進めています。開校に先駆け、同年3月には湊線の平磯―磯崎駅間に美乃浜学園駅が開業。児童、生徒が通学に利用しています。



市立美乃浜学園



美乃浜学園駅



2022年のラッキーフェス(当時・ラッキーエフエム グリーンフェスティバル)

ラッキーフェス 初開催

2022年

2022年7月、野外音楽イベント、ラッキーフェスが国営ひたち海浜公園で始まりました。同公園で築かれたロック音楽文化を継承しようとするもので、2日間で67組のアーティストが出演し、延べ約2万人が訪れました。3回目となった24年は規模を拡大し、114組がパフォーマンス。約6万人の観客が熱狂しました。

あなたとここで

作詞・作曲 宮嶋みぎわ(BMI)

どうして
このまちが好きなんだろう
青空に溶ける花びらのせいかな？

忘れられない
鮮やかな色たちが
ここをまた たぐりよせて
想いはふるさとへ

春が咲き 夏が弾け
秋は歌い 冬は舞う

あなたとここにいた日々が
たからもの

どうして
このまちに来ちゃうんだろう
悲しみを溶かす何かがあるよね

助け合いたい
笑顔を分け合いたい
ここをまた 呼び戻して
想いはふるさとへ

田んぼの向こうの工場の屋根
いつもの駅の踏切のリズム
大きな夕日を公園から見てた
神社の鳥居は走ってくぐって

一緒に覚えた古いメロディ
教室の窓からさくら、さくら

何気ない全てが美しいのは
優しさで 未来を作る
そんなまちだから

夢を追い
涙あふれ
時間が経って
自分に帰る

あなたがここに
いてくれて
全ての意味が変わっていく

朝の希望
昼のハーモニー
ゆうべのロマンス
夜の祈り

あなたがここにいることが
たからもの
あなたとここで紡いでく
たからもの



Migiwa



作詞・作曲 ^{みやじま}宮嶋みぎわさん

わたしの出身地である茨城県のひたちなか市の市制30周年を記念して、ひたちなか市の歌を市の子どもたちといっしょに作りました。ひたちなか市はこんな美しい場所で、市の雰囲気もおおらかで。大好きな場所!ここで育ったことを誇りに思います。

▶プロフィール

ひたちなか市東石川育ちで田彦小、大島中の卒業生、米ニューヨーク在住の作曲家、プロデューサー、ピアニスト。グラミー賞ノミネート6作品に参加、他にも2020年ニューヨーク市長室の女性芸術家助成金をはじめ、国際賞の受賞多数。バードランドやタイムズスクエアなどニューヨークの各所で演奏を重ねつつ世界各地で活躍中。

まちに誇り、愛着を

シビックプライド醸成へ

2021(令和3)年度

キャッチコピー、ロゴマーク決定

市民の皆さまの関心を高めるとともに、よりどころをつくるため、市民参画のワークショップを行いながら市のキャッチコピー「ひとが咲くまち。ひたちなか」を作りしました。それにふさわしいロゴマークも、公募と一般投票で決定しました。

《ひとが咲くまち。ひたちなか》に込めた市のメッセージ》

このまちでは、ネモフィラやコキアだけでなく、ひとも健やかに成長しています。ひとりひとりが、自分らしい花を咲かせ、さまざまな花が集まって、花畑のように美しく心地よいまちになるために、ひたちなかは、これからも、ひととくらしの未来を育てていきます。

《ひとが咲くまち。ひたちなか》のロゴマークに込めたデザイナーの想い》

ひたちなか市が心地よいまちになるために自然とひとが寄り添い合い、成長していくという想いを込めて制作。市の頭文字を小文字「h」で表現し、この先の成長を意図した表現になっています。



ひとが咲くまち。
ひたちなか

コラム

ひたちなか市のさまざまな魅力の中から、何をピックアップして一つのロゴマークに落とし込むか。本当に悩みましたが、「ひとが咲くまち。ひたちなか」というキャッチコピーから、デザインの方向性を探りました。ロゴマークの色数や曲線は、市民のみなさんから長く愛されている市章から補っています。見ていると気持ちが落ち着くなどのポイントを意識しつつ、地域に馴染むロゴになってほしいと願いながら制作しました。

デザイナー 村上彩音さん

東京都生まれ。東京工科大学デザイン学部出身。在学中にロゴをデザイン。



シビックプライドフェスティバル

「シビックプライド」とは、まちへの誇りや愛着、共感を持ち、自発的にまちをよくしようとする気持ち。市では、将来にわたり活力を維持し、多くの方々から好きだと言ってもらえるまちであり続けるため、まちへの誇りや愛着を意味する「シビックプライド」を醸成する取り組みを進めています。

Civic Pride

キャッチコピー「ひとが咲くまち。ひたちなか」の通り、多くの方が「シビックプライド」をもって自分らしい花を咲かせ、生き生きと活躍できる魅力的なまちとなり、さらには多くの方から「選ばれるまち」となるよう、市民の皆様と共にまちづくりを進めていきます。

「SDGs×シビックプライド」シンポジウム

2022(令和4)年度

17の目標に向けて自分のできることから始める、というSDGsの理念がシビックプライドと親和性が高いことから、SDGsとシビックプライドを関連付けた「SDGs×シビックプライドシンポジウム」を10月に開催しました。ひたちなか市出身のお笑い芸人である黒沢かずこさんや、地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティをデザインするstudio-L代表の山崎亮さんを迎え、トークショーやパネルディスカッションを行いました。



SDGs×シビックプライドシンポジウム

シビックプライドフェスティバル

2023(令和5)年度

「シビックプライドフェスティバル」と銘打ったイベントを、10月の2日間に分けて開催しました。1日目は「共に創る、新たなつながりの形」と題し、山崎亮さんや、行政学・地方自治論を専門とする東京都立大学教授の大杉覚さんによるスペシャルトーク、お二人と市長を交えたトークセッションを行いました。2日目は山崎さんや黒沢かずこさん、地域で活躍するプレーヤー4人によるパネルディスカッションのほか、参加者との交流会を行い、つながりを実感できる機会をつくりました。



トークセッション

Day-1

内容

- ▶ 山崎亮さん、大杉覚さんによる講演
- ▶ トークセッション

登壇者

- ▶ 山崎亮さん(studio-L代表)
- ▶ 大杉覚さん(東京都立大学教授)
- ▶ 大谷明(ひたちなか市長)

Day-2

内容

- ▶ パネルディスカッション
- ▶ 参加者同士の交流会

登壇者

- ▶ 山崎亮さん(studio-L代表)
- ▶ 黒沢かずこさん(吉本興業所属芸人)
- ▶ 地域で活動するプレーヤー4名



パネルディスカッション

内容

- ▶ サプライズ ▶ 黒沢かずこさん「ひたちなか応援大使」就任発表
- ▶ 第1部 ▶ トークショー
- ▶ ▶ 市内事業者による事例発表
- ▶ 第2部 ▶ パネルディスカッション

登壇者

- ▶ 黒沢かずこさん(吉本興業所属芸人)
- ▶ 佐久間一行さん(吉本興業所属芸人)
- ▶ 山崎亮さん(studio-L代表)
- ▶ 小池伸秋さん(地域プレーヤー)
- ▶ 大谷明(ひたちなか市長)

記念事業で感じる市の魅力

2024(令和6)年度

市誕生30周年という節目に、市民はもとより、ひたちなか市と関わりを持つ方々と共に、文化や芸術、スポーツ、産業、教育などの様々な分野で記念事業を実施しています。30周年を祝う多様な機会を創出することで、より多くの方々方が市の魅力を感じ、まちに対する「シビックプライド」を高めることを目指しています。

安全安心



東日本大震災では、ひたちなか市も甚大な被害を受けました。市は、防災・減災対策を強化し、地域の絆を活かした災害に強いまちづくりを進めています。また、交通安全対策や防犯対策にも取り組んでいます。



自治会の登下校立哨活動



大島第1幹線の水路布設工事

交通安全・防犯対策

地域と連携して交通安全対策や防犯対策に取り組み、安全安心なまちづくりに努めています。地域のボランティア団体などにより交通安全パトロールや防犯パトロールが実施されているほか、交通事故防止や防犯意識を啓発する街頭キャンペーンなどの地域安全活動に対して支援しています。

雨水幹線整備

2016年8月の集中豪雨による浸水被害解消に向けて策定した中丸川流域の浸水被害軽減プラン「100ミリ安心プラン」に基づき、雨水幹線の整備を計画的に進めています。雨水の流出を抑制し、集中豪雨に対応するため、公園や学校の地表上貯留施設整備や、各戸での浸透施設設置を促進しています。



総合防災訓練の実施

東日本大震災後、防災体制の確立に向け、市による避難所開設・運営や通信連絡の訓練を行っています。また、自主防災会による避難訓練や避難行動要支援者の安否確認訓練など、地域の実情に合わせて自ら策定した避難計画に基づき、児童生徒や保護者も含めた市民参加型の総合防災訓練を全地域で毎年実施しています。個人・企業・団体などの個別訓練も奨励しています。



総合防災訓練の様子

ひたちなかのまちづくり

笑顔咲く暮らしへ～

観光の推進

市内には、美しい自然景観、国営ひたち海浜公園や那珂湊おさかな市場などの名所、史跡・名勝、祭りや伝統文化など多くの観光資源があります。地域の食やイベントなどと結びつけたり、海浜鉄道や茨城交通バスなど公共交通機関と連携したりしながら、市内回遊を促し滞在時間を延長するきっかけ作りをしています。



HITACHINAKA COFFEE FESTIVAL



那珂湊おさかな市場

創業支援

市では、創業支援促進事業補助金や融資支援制度を通じて、夢の実現を応援しています。空き店舗を有効活用する空き店舗チャレンジショップ事業では、これまで48件が創業しています。そのほか、創業支援コーディネーターが専門的なアドバイスを提供するなど、創業を目指す方々を全力でサポートしています。



空き店舗チャレンジショップ事業を活用し洋菓子店を開店

農業・水産業

生産量日本一のほしいもは、付加価値や品質の向上、PRで他産地との差別化を図り、地域ブランド化を推進しています。市内で水揚げされる新鮮な水産物や日本有数の加工量を誇るタコなどの加工品は、魚食普及活動を通じ消費拡大を図っています。お土産品磨き上げプロジェクト「SHIO_KAZE」では、デザイナーと市内事業者がタッグを組み、市の魅力が伝わる19品が誕生しました。



お土産品磨き上げプロジェクト「SHIO_KAZE」の商品

生産量日本一のほしいも

タコは日本有数の加工量

ひたちなか市は製造業だけでなく、ほしいもなどの農業、水産業、観光業が盛んで、観光資源を生かした交流を進めています。また、企業誘致や雇用創出、産業基盤の強化、人材育成にも努めています。



にぎわい

福祉

全国的に人口減少社会を迎える中、市民が安心して住み続けられる地域社会を目指し、家族や地域のつながりを深めるとともに、健康づくりや介護予防に取り組んでいます。また、ひたちなか総合病院を中心とした医療体制の強化にも努めています。

ときめき元気塾・シルバーリハビリ体操教室



体操などを皆で楽しむ

市民の健康づくりを推進するリーダーとして、食生活改善推進員や保健推進員などを育成し、活動を支援しています。元気アップサポーターを中心に市内37カ所で開く「ときめき元気塾」では、元気アップ体操で介護予防を推進しています。また、シルバーリハビリ体操指導士の指導による体操教室を開催しています。これらの体操は、筋力や柔軟性を高め、身体機能を維持増進する効果が期待されています。



休日夜間診療所

休日夜間診療所の運営、小児救急運営の支援

地域医療の核となる日立製作所ひたちなか総合病院とかかりつけ医の分担、連携を推進し、患者の状態に合った効率的な医療提供を目指しています。医師会や薬剤師会との連携で休日夜間診療所を運営し、総合病院が実施する小児救急の運営や医師の確保を支援するなど、医療体制の整備に取り組んでいます。



みつばちカフェで交流する市民

みつばちカフェ

さまざまな世代の地域住民が福祉について話し合う「みつばちカフェ」を開いています。各地区のコミュニティセンターなどで毎年行い、地域福祉への理解や意識の醸成を図っています。住民同士が気軽に交流できる場となっており、会議で出されたアイデアが市のサービス向上につながったこともあります。

子育て支援

子育て支援の拠点「ふあみりこ」を中心に、各地区の子育て支援センターや市民が運営するサロンなど、未就学児の親子が集える場づくりを進めています。また、子育てに不安を抱える家庭にボランティアが訪問して寄り添う「ホームスター」など、子育て家庭への訪問支援に取り組んでいます。地域全体で協力し、共働き世帯でも安心して子育てができるまちを目指します。



「ふたごちゃんの日」に遊ぶ双子たち



子育てサロンに集まる家族

妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援や保育サービスの提供、育児相談体制の強化を進め、若い世代への支援と子育て環境の整備に取り組んでいます。また、地域と連携した教育、伝統文化の継承、安全でおいしい学校給食の提供など、誰もがいきいきと生活できる学校づくりを行っています。



子ども



笑顔サミット

市内の小中義務教育学校などに通う児童生徒が意見交換や交流をする「笑顔サミット」を開いています。市の誕生から30年を迎えた2024年は、「私たちが創る、未来のひたちなか市」をテーマに議論を交わしました。ひたちなか市で育ち、作曲家、プロデューサー、ピアニストとして世界で活躍する宮嶋みぎわさんが講演し、30周年を記念して制作した「あなたとここで」を初披露しました。



市の未来について議論した笑顔サミット

おいしい給食

市内小中義務教育学校で提供する素材や栄養バランスにこだわった給食は、子どもたちの成長を支えています。地元で生産、加工された食材を取り入れ、子どもたちの食育に活用することで、地域への理解を深められるようにしています。30周年記念献立では、「湊の贅沢たこめし・常磐沖のメヒカリフライ・さつまいものスタミナサラダ・お祝いゼリー」を提供しました。



給食を食べる子どもたち

快適な暮らし

老朽化が進むインフラの計画的な補修や改修を行うほか、公共交通の充実と都市機能の再編を進め、持続可能な都市を目指しています。



ひたちなか海浜鉄道中根駅で大漁桜の下を走る車両

ひたちなか海浜鉄道湊線の延伸計画

ひたちなか海浜鉄道では、湊線の終点・阿字ヶ浦駅から国営ひたち海浜公園付近までの延伸計画を進めています。湊線の延伸により、沿線地域の利便性を向上させるとともに、観光客の回遊性を高め地域経済の活性化や交流人口の拡大につなげます。また、海浜公園を訪れる観光客などの新たな需要を取り込むことにより、市の基幹交通としての基盤を強化します。



2023年に供用開始した佐和駅の新駅舎

新佐和駅舎供用開始

2023年、佐和駅は橋上駅と東西自由通路の供用を開始し、駅東西間の利便性と安全性が向上しました。今後も駅周辺の環境整備を進めることで、佐和駅を中心とする地域のさらなる発展が期待されます。緑豊かな住宅地や商業・業務施設を形成し、より暮らしやすいまちを目指します。

環境

3R(リデュース、リユース、リサイクル)推進による資源循環型まちづくりの一環として、民間事業者と連携し、不要な家具や家電をリユース・リサイクルする仕組みを導入しています。加えて、資源回収への補助やイベントでの啓発活動を行っています。また、住民が気軽に利用できる街区公園やバリアフリーに配慮した歩道を整備し、歩いて暮らせるまちづくりを推進しています。



SDGsの啓発活動



石川運動ひろば

自治会活動



人と人をつなぐ地域の夏祭り

市内には84の自治会と9のコミュニティ組織があります。自治会では、防災・防犯、資源の有効活用・ごみの減量化、高齢者の見守りなど、自分たちのまちをより良くするための活動が行われています。コミュニティ組織においては、コミュニティセンター運営のほか、お祭りや運動会をはじめとした交流活動や地域課題について話し合う「まちづくり市民会議」など、地域の特性に合わせた活動が展開されています。



自治会活動を紹介する市自治会連合会マスコットキャラクター「おとなりさん」

ひたちなか市は自治会やコミュニティ組織の活動が活発で、市民力の高いまちです。2010年に「ひたちなか市自立と協働のまちづくり基本条例」を制定し、地域と市が連携し、地域の課題解決に取り組んでいます。



協働

シティプロモーション・広報

市では、毎月2回発行の「市報ひたちなか」や市公式ホームページ、X(旧Twitter)やLINE、note、InstagramなどのSNSを活用し、分かりやすく利用しやすい情報発信に努めています。また、移住定住サイト「Love&Peace Hitachinaka Life」を通じて生活情報やまちに暮らす方々の生の声を紹介するなど、地域の魅力を知ってもらう機会をつくっています。



シティプロモーションで定住を促進

交流の促進

大規模イベントの誘致や伝統文化などの芸術文化資源を活用したイベントの充実を図り、魅力を発信することで、まちのにぎわいや交流人口の拡大を目指しています。観光協会やイベント主催者、地域、関係団体などと連携し、来場者の市内回遊や宿泊につなげ、さらに地域や地域の人々に関わる関係人口となるような取り組みを推進します。



観光案内や体験コーナーで魅力を発信

スポーツで輝く

ひたちなか



勝田
全国マラソン

開催70回を超え、全国有数の歴史と規模を誇るマラソン大会。全国から1万5千人超のランナーが参加します。参加者には、市の特産品「完走いも」が配布されます。毎年、約2千人のボランティアが参加し、選手が安心して大会に臨めるように、会場運営や交通誘導、選手誘導などの役割を担います。さらに、沿道各所でたくさんの市民がランナーに対し給水や食べ物を提供し応援します。沿道を埋める市民が温かい声援を送る市民総参加型の大会です。



MARATHON

毎年開催される勝田全国マラソンや三浜駅伝競走大会は、県内外からランナーが集い健脚を競ってきました。市民も参加しやすく、歴史と伝統のある大会に成長しています。また、ひたちなか市はバスケットボールやバレーボール、サッカー、陸上といったプロ・実業団チームと連携協定を締結し、スポーツ教室などを通じて、子どもたちの育成やスポーツ振興に力を入れています。



ROAD RACE

三浜駅伝競走大会

大洗町と共催で実施している駅伝大会。県内外から毎年多くのチームが参加しています。大会名の「三浜」とは、ひたちなか市と大洗町に広がる三つの浜、平磯・那珂湊・大洗を指します。75回を超える大会の歴史は、この太平洋を臨むコースで紡がれ、現在に至ります。大会当日は、那珂湊漁業協同組合女性部が作るつみれ汁と、那珂湊焼きそば大学院の那珂湊焼きそばを無料配布しており、参加者から大変好評です。

プロ・実業団チームとの連携協定

市内や県内を拠点に活躍するプロ・実業団チームと協定を締結し、さまざまな連携事業を実施しています。2024年現在は、日立ハイテククーガーズ(女子バスケットボール)、日立女子陸上競技部(女子バレーボール)、Astemoリヴァール茨城(女子サッカー)、茨城ロボッツ(男子バスケットボール)の5チームとそれぞれ協定を締結し、毎年スポーツ教室を開催するなど、市のスポーツ振興のための連携事業を行っています。

また、市内開催のホームゲームや市民無料招待の公式戦が毎年開催されていますので、ぜひ現地へ足を運んでみてください。



日立ハイテククーガーズ



水戸ホーリーホック
(水戸ホーリーホック提供)



茨城ロボッツ



Astemoリヴァール茨城



日立女子陸上競技部

PROFESSIONAL

2017(平成29)年度
ひたちなか市を含む県央8市町村が水戸ホーリーホックのホームタウンに加盟しました。2024年現在では、県北地区の市町村も加わり、県内15市町村で水戸ホーリーホック推進協議会を構成。同クラブと茨城県全体の活性化を目指して連携事業を実施しています。



2021(令和3)年度
日立ハイテククーガーズ、Astemoリヴァール茨城(当時・日立リヴァール)、日立女子陸上競技部とホームタウンパートナー協定を締結しました。市のスポーツ振興に関することと、青少年の健全育成に関することについて連携協力することを定め、スポーツ教室や学校訪問などの事業を毎年行っています。



日立ハイテククーガーズ



Astemoリヴァール茨城



日立女子陸上競技部

2022(令和4)年度

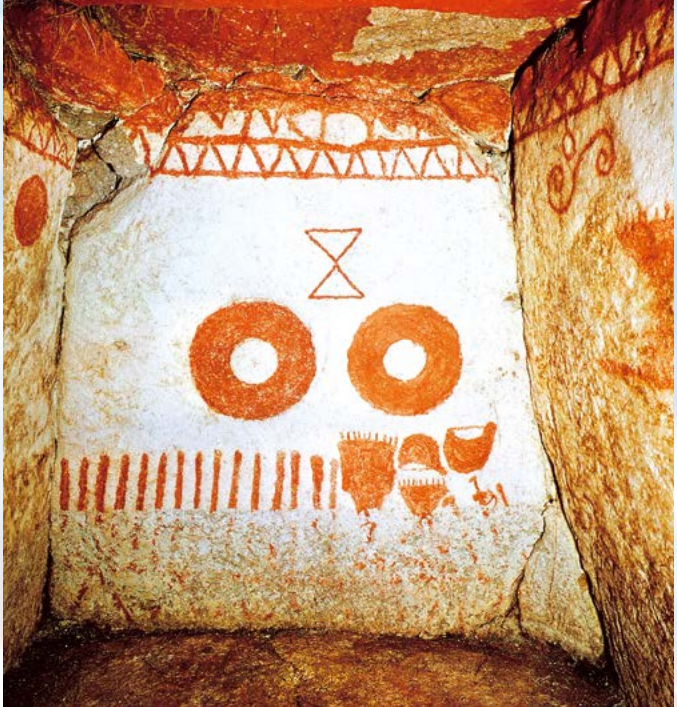
茨城ロボッツとフレンドリータウン協定を締結しました。2024年度から、連携事業の一環として「茨城ロボッツバスケットボールスクールひたちなか校」を市内で開催し、未就学児から小学生まで多くの子どもたちが参加しています。毎年ホームゲーム時には市民を無料招待するなど、市のスポーツ振興のための事業を行っています。



守り継ぎたい 歴史・伝統・文化財

国指定史跡 虎塚古墳

7世紀初めに造られた全長56・5mの前方後円墳。白く塗られた石室の壁に朱色のベンガラで描かれた彩色壁画が特徴です。丸や三角の幾何学文様、首飾り、武器、馬具などが描かれています。1973年の発掘時には、成人男子の遺骸と副葬品の銀装の小大刀、刀子、鉄鏃などが出土しました。埋葬されたのは当時の首長と考えられています。1980年には公開保存施設が作られ、毎年春と秋に壁画の一般公開が行われています。発掘から50年が過ぎた今も、その鮮やかな彩色を保っています。



虎塚古墳の彩色壁画



十五郎穴横穴群

国指定史跡 十五郎穴横穴群

7世紀初め頃から造られ、平安時代初頭まで使われた東日本最大級の横穴墓群です。約1kmの範囲で、指漕、館出、笠谷の三つの支群に分布しています。これまで274基が確認されており、総数は500基以上と推定されています。横穴墓からは人骨のほか、蔵手刀や須恵器、勾玉などの副葬品が見つかっています。正倉院の宝物と類似した帯執金具付きの刀子は、全国で初めてほぼ完全な形で発見されました。2024年2月には、市で3例目の国指定史跡になりました。

国指定史跡 馬渡埴輪製作遺跡



馬渡はにわ公園

古墳時代の5、6世紀に埴輪を生産していた工場の跡です。日本で初めて、原料となる粘土の採掘から、埴輪を成形、乾燥して焼き上げるまでの一連の遺構が確認されました。工人たちの住居跡も見されており、全国的にも希少で学術的価値の高い遺跡です。現在は「馬渡はにわ公園」として整備され、6月中旬になるとハナシヨウブが見頃を迎えます。

那珂湊地区の海運

那珂湊は海運で栄えてきた港町です。江戸時代には「西の大阪、東の湊」と称されるほどで、東北地方の物資を江戸に運ぶ東廻り航路の中継港として、海上交通を支えました。しかし、幕末に水戸藩で起こった元治甲子の乱で激戦地となり、家屋や神社仏閣が破壊されたほか、昭和前期の大火で古い建物の多くが失われました。現在は一部に出桁造の重厚な建築が残り、当時の繁栄を伝えています。



磯節祭りパレード(1961年)

県指定史跡 那珂湊反射炉跡

幕末の1857年、異国船に対抗できる大砲の製造を目的に、水戸藩第9代藩主の徳川斉昭が建てました。斉昭公は国防、特に海防の必要性を強く説きました。オランダの技術に学び、金属を溶解する炉を2基作りしました。製造された大砲は、幕府にも献納されました。炉は元治甲子の乱で破壊されてしまい、現在ある模型は1937年に復元されたものです。



那珂湊反射炉跡

各地の祭り

市内各地で行われる数々の祭りは、夏の風物詩となっています。市指定の無形民俗文化財になっている演舞やおはやしなどもあり、祭りを通して、地元の人々の歴史や伝統、信仰に触れることができます。コロナ禍での中止や開催形態の変更などの危機を乗り越えた祭りの灯を、これからも守り継いでいきます。

ひたちなか祭り

表町商店街や昭和通りをメイン会場とする市の一大イベントで、30周年を迎えた2024年は約21万人が訪れました。3千発超の花火を皮切りに、2日間におたつて三輪車レース、24時間リレーマラソンなどさまざまな催しが行われます。ダンスや山車、神輿のパレードが祭りのフィナーレを飾ります。



山車・神輿パレード

担ぎ手たち



ひたちなかソング「素敵な明日のために」ダンスパレード



神輿を海中で洗い清める「お浜入り」

市指定無形民俗文化財

天満宮の祭礼(みなと八朔まつり)

2年に1度の那珂湊天満宮の祭事で、水戸藩第2代藩主の徳川光圀が現在の形に整えてから、300年以上続いています。海中で神輿をもむ「お浜入り」があり、町中を山車が練り歩きます。供奉行列で行われる、市指定無形民俗文化財の「六町目獅子」、三元町みろく」の演舞も見どころです。

市指定無形民俗文化財

平磯三社祭(潮祭)

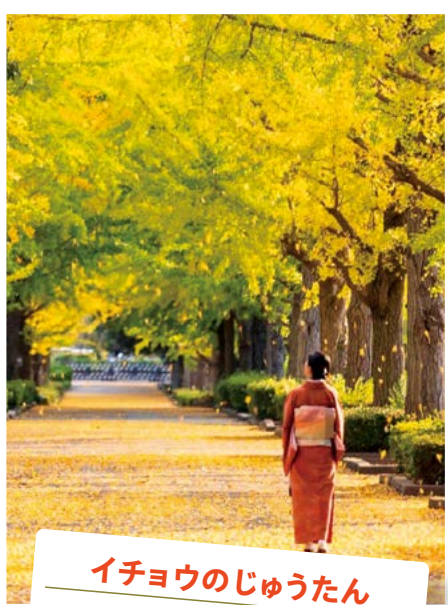
平磯地区で3年に1度開かれる「千に二日の夏祭り」。連日のカツオ漁で疲労がたまる漁師の骨休めとして始まったとされています。その後、酒列磯前神社と津神社、起松神社の三社祭として定着しました。ひき屋台(山車)や獅子が練り歩き、おはやし、太鼓、三味線の音色に合わせた「おっしやいな」の掛け声が祭りを盛り上げます。

「おっしやいな」の掛け声で盛り上げる



各町を練り歩くひき屋台





イチョウのじゅうたん
笠松運動公園
2023.11.18
いいとこ発信隊 ちひろ



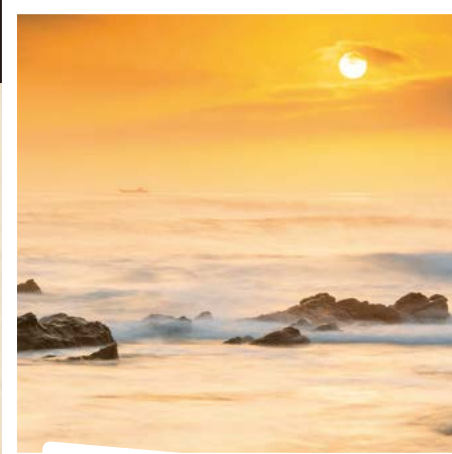
**夏が待てない
大ちゃんみ〜つけ!!**
平磯海水浴場
2022.07.14
いいとこ発信隊 きょうちゃん



**駅前に輝く
イルミネーション**
勝田駅
2024.01.10
いいとこ発信隊 くつく& mari



心を鎮めて神前に向かう
酒列磯前神社の樹叢
2024.01.21
いいとこ発信隊 ちひろ



茨城の海と朝
平磯海岸
2023.10.20
いいとこ発信隊 8月フォトコンテスト受賞作



つれるかな?
親水性中央公園
2024.05.20
いいとこ発信隊 さつちゃん



普段とはまた違う表情
国営ひたち海浜公園
2023.11.17
いいとこ発信隊 9月フォトコンテスト受賞作



和太鼓と笛と鐘の音
和奏-wakana-
2022.07.19
いいとこ発信隊 ちはる

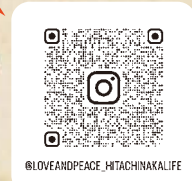


日本一!いや世界一!
ほしいも作り
2022.02.05
いいとこ発信隊 きょうちゃん

集めました! *Instagram*

ひたちなか市と市民サポーター「いいとこ発信隊」は、Instagram (インスタグラム) で、まちの素敵な場所や出来事、情報を紹介しています。今回は、投稿の中からより魅力的なシーンを集めてみました。住み慣れたまちの愛おしい瞬間をこれからも見つけていきたいですね。

「#いいとこ発信隊」と一緒に発信中



@loveandpeace_hitachinakalife

「ひたちなか市のモノ・コト」を発信中



@hitachinaka_official



これぞ祭りだ!
みなと八朔まつり
2023.11.15
いいとこ発信隊 9月フォトコンテスト受賞作



海へと至る道
国営ひたち海浜公園
2022.03.28
「FSHIO_KAZE」フォトコンテスト受賞作



**春風に吹かれながら、
駅の桜を愛でる
素敵なひととき**
ひたちなか海浜鉄道中根駅
2024.03.29
いいとこ発信隊 ちひろ



**県内最古の灯台、
磯埼灯台**
2023.11.29
いいとこ発信隊 まっちゃん



**まるで別の世界へ
つながっているかのような
レンガの隧道**
JR常磐線高架下
2022.08.09
いいとこ発信隊 もっちゃん



**山上門をくぐった先に
河津桜**
2024.03.25
いいとこ発信隊 ちひろ&あさり